

第三者意見

「中部電力グループアニュアルレポート2012」のCSR関連ページを読んで

中部電力では、今年度からCSR報告書とアニュアルレポートが統合されました。私は、アニュアルレポートの財務データ以外のCSRに関連するページを読み、第三者としてのコメントを以下に表明します。



(株)環境管理会計研究所
上席研究員
広島経済大学 教授
岡田 斎 氏

1. 浜岡原子力発電所と電力安定供給に向けた各種の取り組み

国からの要請により浜岡原子力発電所は運転停止しました。原子力発電は、社会の信頼なくては成り立たない事業です。中部電力は社会の信頼を得るために浜岡原子力発電所において取り組んでいるさまざまな安全対策を特集記事としてこのレポートで開示するとともに、ステークホルダーとのコミュニケーション活動などを通じて社会に情報発信していません。また、電力安定供給についても、節電への協力のお願ひも含んだ情報発信が見られます。中部電力が取り組んでいる安全対策や電力の安定供給に向けた取り組みをさまざまな方法で社会に広く発信していることは、電気事業者として情報開示・発信に関する社会的な責任を果たしていると考えます。

2. CSRの深化への取り組み

中部電力のCSRの考え方は、企業理念から導かれた「中部電力グループCSR宣言」としてとりまとめられています。2011年度は、CSR活動をより高いレベルで展開するために、社会的責任に関する国際規格ISO26000の中核主題に沿って現状の取り組みを整理され、PDCAを確実に回す取り組みを始められました。CSRの課題が、経営計画に落とし込まれ、中部電

力のCSRが着実に推進されていることは評価できます。なお、CSRの課題は、中部電力を取り巻く社会環境の変化に応じて弾力的に見直されるべきものです。今後は、社会環境の変化をステークホルダーとの対話を通じて継続的に把握し、対応すべき新たな課題が出現すればCSRの新たな課題として経営に落とし込み、確実に取り組まれることを期待します。

3. ステークホルダーとのコミュニケーション活動の充実

中部電力は、このレポートからも読み取れるように、ステークホルダーとの双方向コミュニケーションに取り組むことがCSRマネジメントの重要な課題であると認識され、さまざまなステークホルダーとの対話を積極的に進めています。そして、その様子もレポートの随所に開示されています。これらの活動は高く評価できるものですが、その結果をCSRマネジメントにどのように反映したかの記述が少ないように思われます。今後もオープンな環境でさまざまなステークホルダーとの対話を継続され、社会のニーズを把握するとともに対話の結果を広く開示されることを期待します。

中部電力のCSRのさらなる進展を期待します。

第三者意見を受けて

東日本大震災以降、原子力発電や電気料金に関する事項をはじめ、電力システム全般に関してお客さまのご関心が非常に高くなっていると実感しています。こうした時だからこそお客さまにきちんと、正確な情報をお伝えしつつ、CSRの取り組みを着実に進める必要があります。

CSRの取り組みの実践には、地域の皆さまのご理解と信頼が必要不可欠であり、今回いただいたコメントを踏まえ、今後もステークホルダーの皆さまとの対話活動を継続的におこない、それを業務運営に反映し改善につなげていくとともに、適切な情報発信をおこない、地域の皆さまからご支持いただけるよう取り組んでまいります。



中部電力(株)
取締役 専務執行役員
経営戦略本部長
勝野 哲